

### 3 愛知県・名古屋市での節水努力の呼びかけ

水 資 源 課  
産業立地通商課  
農地計画課  
水道計画課  
水道事業課



## 【愛知県・名古屋市での節水努力の呼びかけ】

### ○ 広報活動のとりまとめ

愛知県では、令和2年度に次のとおり「水の大切さ」や「節水」等呼びかける広報活動を行った。

#### 愛知県における節水PR等に関する取組状況について

部 局 名	取 組 内 容	備 考
建設局 水資源課	○ホームページで節水型社会の形成に向けてのPR	⇒資料①
	○節水ステッカーによる節水の啓発	⇒資料②
経済産業局 産業立地通商課	○「工業用水施策のあらまし」ホームページ掲載	⇒資料③
農林基盤局 農地計画課	○「あいちの農業用水展」開催	⇒資料④
企業庁 水道計画課 水道事業課	○パンフレット・パネル展示等による節水啓発	⇒資料⑤
	○水道週間の各イベントにおける節水の啓発	⇒資料⑥
	○小学4年生を対象とした出張講座	⇒資料⑦
	○ホームページに水源状況の掲載	⇒資料⑧
	○水道事務所における水源状況の掲示	⇒資料⑨



[ホーム](#) > [組織でさがす](#) > [水資源課](#) > 第42回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 入賞作文

## 第42回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 入賞作文

掲載日:2020年10月1日更新

第42回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰の入賞作文です。

最優秀賞及び優秀賞については、題名をクリックすると、作文の全文をご覧になることができます。

(敬称略・賞区分ごとに50音順)

### 最優秀賞(1編)

- 『[大地と街を潤す豊川用水](#) [PDFファイル/78KB]』

豊川市立南部中学校 3年 河邊 心那

### 優秀賞(4編)

- 『[世界をめぐる水ー海水を見つめてー](#) [PDFファイル/77KB]』

学校法人滝学園 滝中学校 3年 小川 裕宇那

- 『[安全な水に思う](#) [PDFファイル/76KB]』

常滑市立南陵中学校 3年 高澤 優里

- 『[諸刃の剣「水」](#) [PDFファイル/88KB]』

扶桑町立扶桑中学校 3年 真野 聡真

- 『[命の水](#) [PDFファイル/90KB]』

設楽町立津具中学校 3年 村松 音波

### 入選(3編)

- 『[豊川放水路と私](#)』

豊川市立南部中学校 3年 大井 祐架

- 『[明るい未来にするために](#)』

名古屋市立汐路中学校 1年 佐々木 恵

- 『[ペットボトル十本生活](#)』

長久手市立南中学校 3年 佐々木 優真

### 関連コンテンツ

- 第41回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 受賞作文

- [第41回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 最優秀賞 『コップ一杯の水』](#)
- [第41回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 優秀賞 『黄金堤と吉良様』](#)
- [第41回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 優秀賞 『日本の水の貴重さ』](#)
- [第41回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 優秀賞 『人災を封じ災害を防ぐ』](#)

[「水の日」「水の週間」のページへ](#)

[水資源課のトップページへ](#)



PDF形式のファイルをご覧いただく場合には、Adobe社が提供するAdobe Readerが必要です。Adobe Readerをお持ちでない方は、バナーのリンク先からダウンロードしてください。(無料)

このページに関する問合せ先

[水資源課](#)

企画・調整グループ

名古屋市中区三の丸3-1-2 愛知県庁本庁舎5階 Tel:052-954-6118 Fax:052-961-3293

[メールでの問合せはこちら](#)

[一つ前のページに戻る](#)

[このページのトップへ](#)

[このホームページについて](#)

[個人情報の取扱い](#)

[免責事項・リンク](#)

[RSS配信](#)

### 愛知県

県庁住所: 〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号 (県庁舎へのアクセスはこちら)

代表電話: 052-961-2111 (県機関の連絡先はこちら)

開庁時間: 午前8時45分～午後5時30分(土日祝日・12月29日～1月3日を除く)※開庁時間の異なる組織、施設があります。

法人番号: 1000020230006

Copyright (C) Aichi Prefecture. All rights reserved.

## 【最優秀賞】

### 【大地と街を潤す豊川用水】

豊川市立南部中学校 三年 河邊 心那

新型コロナウイルスの状況も落ち着き、私たちの学校でも授業や学級生活が再開しました。六月三日からは給食も始まり、地元の食材を生かした献立を楽しんでいます。私たちの住む豊川市やその周辺では、特に、シソやウズラの卵が有名で、東三河地方が全国シェアの半分以上を占めているそうです。最近ではバラやスプレーマムなど、多岐にわたって全国トップレベルの生産をあげています。

そこで私は、昨年の夏休みに豊川用水について調べたり、頭首工を見に行ったりしたことを思い出しました。八十キロメートルに満たない豊川流域では、毎年のように洪水や干ばつに襲われ、五十万人以上の農民が苦しんでいたそうです。松原用水という細い用水路が一五六七年に造られたことから、どんなに長い間、人々が水に悩まされてきたかがわかります。明治時代になって、牟呂用水や神野新田という三河湾沿いの干拓地ができますが、水の安定供給によって人々の生活も安定したのは、豊川用水の完成があつてのことです。

豊川用水の完成によって、豊川が流れていない、愛知県の先端田原市までが、豊かな農地になりました。昔の田原市では、地下水やため池を使用した農業に、限界がありました。水不足にも強いサツマイモや小麦しか育たなかったそうです。今では、メロンやキク、養豚などで日本の農業をリードし、市町村別農業産出額は四年連続で全国一位に輝いています。一年間で使用される二億六千万立方メートルのうち、七十パーセントは農業用水に、二十四パーセントが水道用水に使われているとわかりました。私が特に驚いたことは、新城市大野の頭首工から渥美半島先端の初立池まで八十二キロ。豊川本流よりも用水の方が長いということです。さらに、電力を使用せず、自然の力だけで流れていると聞いて、びっくりしました。渥美半島は起伏があるのに、どんな工夫があるのか不思議に思いました。

もう一つ強く感じたことは、ダムのおかげです。決して長くはない豊川には二つのダムがあります。古くからある宇連ダムは、一九八十年代に一度干上がった、ダム底に沈んだ村が現れたと聞いたことがあります。豊川流域や豊川用水が水不足で困らないように、二〇〇一年には大島ダムが完成しました。それでもまさかの事態に備え、天竜川の佐久間ダムから通水もできる仕組みがあるそうです。私たちが生きていくうえで、水はなくてはならないものです。水に困っていた東三河の農業が大きく変わり、私たちの町に水が安定してやってくるのは、上流に住む人々のダム建設への理解と協力があつてこそです。故郷や住んでいた集落がダム底に沈んでしまった人たちがいることを、決して忘れてはいけません。水の供給や農作物生産がこれからも持続可能であるために、私も植林活動や河川の清掃に積極的に参加したいです。

豊かな田園風景やスプリングラーが勢いよく回る野菜畑。日本屈指の農業王国になった東三河。私たちの大地を潤すのは、豊川用水を流れる豊富な水のおかげだと、改めて感じました。豊川市という名の通り、自然に流れる川はもちろん、そこに生きる人々の苦勞や努力や知恵に支えられてできた用水やダムがあつて、水が流れ続けていることがわかりました。

豊川用水通水五十周年を迎えた今、あたりまえに手元に届く水のありがたさをかみしめ、この土地に生まれてきたことに感謝したいです。半年後には進学先を決定し、卒業の準備に向かいます。地元の食材を生かした給食をいただけるのも、わずかな期間となります。新しい土地、新しい世界に旅立つ期待と不安はありますが、きっと故郷の大地が支えてくれると思います。しっかりとこの土地に根を張って生きます。水が大地に染みわたっていくように。

## 【優秀賞】

### 【「世界をめぐる水―海水を見つめて―」】

水は英語で water。決まった形のない物を示す不可算名詞。本当には形がないのか。地球にある水のうち、約97%を占める海水を、2つの塩の話から見えました。

古くから日本は海に囲まれた島国として水とつきあってきました。海という、私は塩を思い出します。口に入れるとしよっ辛い塩の味は、自然の状況下でのみ作り出せる味で、人工的には作れないそうです。日本ではそんな塩を、味噌や糖漬けなどの和食に使います。原始時代は、土器に海水を入れ、火をかけて塩味を作っていました。奈良時代からは、塩田で製塩するようになり、そして今では、製塩方法の開発がすすみ、イオン交換樹脂膜法という、〃海水中の塩分だけを電気力で取り出して、濃い塩水をつくり、蒸留させて塩を取り出す方法〃になりました。日本独自の製塩方法だそうです。日本は食塩を自給自足できています。これは、島国・日本における一つの水の恵みだと思っています。

一方、世界には、降水量や河川の少ない、乾燥している地域もあり、そうした地域では長年、水不足とつきあってきました。「海水を真水に換える」日本が水不足に悩む地域に提案した物が、〃海水淡水化プラント〃です。高い圧力を加えて、海水の水の粒子を濾過します。水不足の解決に役立つっているそうです。

日本は世界的に見て、水道技術の高い国、と教えてもらった事があります。学校の先生は、「下水処理場から、きれいにした水を川へ戻す。そういう心がけが、日本の自然環境を守る一歩になっている。」と言っていました。

日本は製塩のような、独自の水に関する高い技術をもっています。昔から水とつきあってきた日本の技術は、日本の風土にあった文化といえるように感じます。水不足に悩む地域に技術を伝えると、文化の交流が生まれます。水が状態を変えて山や川や大気を移動していく事を、〃水

学校法人滝学園 滝中学校 三年 小川 裕宇那

の循環」といいますが、技術を伝える事で生まれる文化の交流も、〃水から生まれた循環〃といえると思います。

私は、三本の大きな川の流れる岐阜県に住んでいます。近くを流れる川に沿って下流へ進むと、川に囲まれた輪中があります。明治時代、オランダ人のヨハネス・デレーケは、祖国・オランダの低湿地を干拓した技術を基に、輪中を大規模に工事して、水害をなくしました。海津市とオランダは今でも交流をしているそうです。水によって生まれた循環は、文化の交流に似ていると思いました。

次に思い浮かべたのは、長い年月をかけて海水をとじこめた岩塩が、過去を覚えてくれるかもしれない、という話です。授業中に、岩塩にとじこめられた古代の生物を生き返らせた科学者の動画を視聴しました。生物が氷河期や隕石衝突などを経ても生きのびた理由を探る手がかりになりそうだと、と科学者の方が言っていました。水は、大昔の事を教えてくれる存在です。それだけではなく、もし、岩塩という海水のおかげで生命が生きのびてくれたのなら、海は私達を守ってくれる存在です。

水や海は、母なる水、と呼ばれます。海から生まれた生命は、水を摂取したり、水によって生きていけると言えるからです。前にみたように、水は、時間や文化交流などの様々な場面で色々な顔を見せます。水について考えると、決まった形のない水と共に、色々な世界をめぐる気分になります。そして、水の大切さ、必要性が見えました。私はもともと水について知りたいと思います。さらに水の循環が止まらないでほしいと思います。そして、今日も、誰かが使った水を、私が使います。だから私は、次に使う人を想像して、大切な水を使おうと思います。



## 【優秀賞】

### 【安全な水に思う】

常滑市立南陵中学校 三年 高澤 優里

あなたは、水道水そのまま飲むことができる国が何か国あるか知っているだろうか。正解は、世界百九十六か国の中で、日本を含むたった十五か国だけである。残りの百八十一か国の中には、飲むどころか水道自体がない国もあるそうだ。日本では水道水を当たり前前に料理などで使っているが、私たちはもつとありがたみを感じて大切に使用していかなくてはならないと思う。

水道から出る水をそのまま飲むためには、水の中の不純物や細菌を消す浄水処理をしなければならず、高度な技術とコストが必要になる。また、日本のように小さな国ならば水道の設置や整備を行いやすいが、大きな国になればなるほど時間もコストもかかるため、すべての国で水道を設置するのは難しいようだ。では、水道自体がない発展途上国では、どうやって水を確保しているのだろうか。

ユニセフによると、安全な水が手に入らない人は世界で約六億六千三百万人。その多くがサハラ以南のアフリカ諸国だそうだ。それらの国では水汲みは子供の仕事になっている。サハラ以南のアフリカ諸国だけでも、三百三十万人以上の子供たちが毎日重い水を持ちながら長距離を歩き、学校に行く時間も体力もなくしている。また、炎天下の砂漠を毎日八時間以上歩いても、一人当たり五リットル未満の茶色い汚水しか手に入らない。完全に殺菌し、安全な水にするためには、浄水器で浄水し、最低でも五分以上沸騰し続けなくてはならない。しかし、浄水器を買うことができない家庭もとても多く、毎日八百人の子供が汚れた水などで命を落としてしまっているそうだ。日本のように当たり前前に水道があり、当たり前前に水が出て、それをそのまま飲むことができる環境というのはとても恵まれているのだと、改めて感じた。

もし、家の近くに水道や井戸ができれば、水汲みの時間分自由に過ごせる。また、安全な水を使い、体を清潔に保つことができる。病気にも

かかりにくくなるため、幼い命が失われることも大幅に減るだろう。そして、普通に学校に通ったりと、子供らしい生活を送ることができるようになるだろう。

そんな人々の生活をサポートしてくれるのがユニセフだ。ユニセフは、清潔な水を届けるために、井戸などの給水設備を整えたり、手洗いなどの衛生習慣を広めるなど、世界の人々が安心して暮らせるようになるための支援活動を行っている。また、設置した井戸を長く大切に使用するための修理方法や部品交換などの技術を教えたりもしている。

「力になりたいけど、自分にできることは何もない。」と思う人もいるだろう。しかし、決してそんなことはない。私たちにもできることはある。私はあるホームページを見つけた。それは、「Goodto」のアンケートだ。たった三問のアンケートに答えるだけで、日本ユニセフ協会へ十円の寄付ができる。私が答えた時には一万七千四百七十三人が回答し、十七万四千七百三十円の支援金になっていた。ユニセフに届けられた支援金は、様々な物資となって外国へ届けられる。約十七万五千円は、洗剤、石鹼、貯水容器などが入った家庭用衛生キットに換算すると二百四十人分となる。実は、私たちも簡単に、ちよつとした支援をすることができるのだ。一人一人ができる支援は小さなものかもしれない。しかし、多くの人がそれを行えば、少しずつ、大きな力に変わっていくのである。私は、水について調べ、生活基盤が充実したこの環境のありがたさを強く実感し、これが当たり前ではないことを絶対に忘れてはいけないと思った。そしてこれから、世界中の人々がきれいな水を安心して飲むことができるようになるよう、私たち一人一人が、自分にできる小さな支援を積み重ねていく必要があるのだと思う。

## 【優秀賞】

### 【諸刃の剣「水」】

扶桑町立扶桑中学校 3年 真野 聡真

二十九年六月、オーストラリア南東部で森林火災が発生した。その火災は、日を重ねるごとに悪化し、同年九月にはオーストラリア全域に及ぶ大規模森林火災へと発生したのだ。その被害は凄まじく、類焼面積は十萬七千平方キロメートル以上、建物被害は五千九百棟以上、死者は二十九名にまで拡がった。更に、オーストラリアに生息する貴重な野生動物は十億を超える生命が失われたと推定された。雄大な自然を壊し、多くの尊い命を奪った森林火災の様子は世界各国で報道がなされ、私も幾度か目にした。多くの犠牲者、犠牲動物を出し、人々を日々不安や心配に追いやった火災を収めたのは、意外なものだった。それは、シドニーで起きた三十年ぶりの豪雨であった。「瞬時つてしまふような話だが、これは紛れも無い事実なのである。実際衛星画像を確認すると、東部を中心に赤く見えた火災箇所も、劇的に減っていることが分かる。つまり、空から降ってきた水の恵みにより、甚大な火災を食い止め、鎮火への大きな兆しを私達に示してくれたのだ。古く昔から雨という空からの恵みは、人々の生活を支えてきた。そして時に、このように人々を救ってくれることを身に染みて感じ、私は深く感銘を受けた。

しかし、雨は常に私達の味方であるとは限らない。二十九年九月、関東や東北を中心に猛烈な被災をもたらした台風十九号が上陸した。この台風により、各地方に記録的な大雨が降った。この雨は、前述の「恵み」の大雨とはまるで違い、人々の普段の生活をも揺るがす「化物」の大雨であった。それに伴い、河川の水の量も溢れんばかりに増えた。そんな不安に包まれた中、私はただテレビで放送されるニュースを見ることでしかできなかった。すると速報で、

「関東甲信越のダムで緊急放流が開始される。」  
という報道がなされた。私の不安は一気に増し、直ぐに報道の内容について調べた。落ち着いて説明を読むと、

「ダムに流れてくる水の量が危険水準に達すると、その量と同じ量を下流に流す法律に基づいた操作。」

とあった。私は河川の水量が異常に増えても適切に対応できるように定められていたことを知り、とても驚くと共に安堵した。

一方で、雨による被害は、大雨に限ったことではない。同年春に、例年のような降雨が無かったことから、愛知県と静岡県に水を供給する豊川用水の水がめ、宇連ダムの貯水率がゼロパーセントとなった。ダムの貯水池には、湖底がはつきりと見え、ダム湖に沈んでいた橋が見えるなど深刻さを物語っていた。供給される水を失った人々はこの先どのような生活していくのか、そう思い関連記事を探すと、

「隣にある天竜川から水をひき、佐久間導水を利用して水を確保する。」と書かれていた。普段は想像できない渇水の状況を前提とし、対応策ができあがっていたのだ。これには私も声をあげて驚嘆した。

このように、雨がもたらす「大雨」と「渇水」の被害は毎年大きな爪痕を残していく。しかし、私達の知らない所で、最善の対策が練られ、最善の対策がなされていることを知り、水害が抑えられていることや安定して水が供給されることに改めて感謝しなければならぬと実感した。前述の如く、人々の生活を支え、人々の命を守る水は諸刃の剣。一人一人が意識して水と向き合っていかなければならない。今私達ができることは、水について知ること。これからも私達は水の恩恵を受け、命の源「水」と共に生きていけることを、切に願う。

## 【優秀賞】

### 【命の水】

設楽町立津具中学校 三年 村松 音波

今、私は学校に行くことができません。二年生の三月から臨時休校になりました。四月になり、三年生として気合いも十分でしたが、まだ学校は始まりません。私は早く学校で友達や先生と授業や部活動などをし、当たり前だった毎日を取り戻したいと願っています。

学校へ行けない理由は、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐためです。世界中にもすごい勢いで感染が広がり、たくさんの方が亡くなり、今まで想像もしたことのない危機的な事態に陥っています。私たちにできることは、感染予防のために外出を控え、手洗いやうがいなどを徹底するしかありません。手洗いやうがいをするためには、水が欠かせません。今や、水が命を守ってくれている、まさに命の水と言っても過言ではありません。

普段から外出後には手洗いうがいを習慣として行っていました。今はそれがどれだけ大切なのかを実感しています。自分の身を守ることはもちろん、大切な家族や周りの人、世界中の全ての人が健康で笑顔でいてほしいと思います。私の家では、

「お父さん、ちゃんと手洗いとうがいがいいね。」  
などと声をかけ合っています。その度、当たり前のように蛇口から出る水が、もし出なくなってしまうらと思うと怖くもなります。

私の住む町は森林に囲まれ、空気は澄み渡り、川には清らかな水が流れ、おいしいお米や野菜が育ちます。ゴールデンウィークには私の家は決まって田植えをします。田植えの頃、田んぼに水が入り、太陽に照らされてきらきらと輝く水面に山々が映り、夜には満天の星が田んぼで輝く、私はそんな風景が大好きです。秋には黄金色の稲穂が風にさやさとそよぎ、おいしいお米がとれます。豊かな緑の山と清らかな水が私たちに恵みを与え続けてくれます。

そして、その清らかな水は山から海へと流れていきます。川が命の水

を運びます。私の住む町は上流にあります。下流へ清らかな命の水を送るために、上流に住む者としての責任を果たしていくことが大切だと思います。

私の通う中学校では、毎年河川清掃を親子活動として実施しています。同じ日に地域の人でも環境美化活動をします。私も実際に川に入り、ごみを拾いました。きれいな川だと思っても、大量のごみが落ちていて驚きました。たくさんのお魚や水生生物の生息する川を美しく保つためにも、私たち一人一人がモラルを守ることが大切だと考えます。また、生活排水で川を汚さないために下水道の整備をしてくれた方々にも感謝をしたいと思います。

これからも清潔で安全な住みよい環境づくりに努め、きれいな水を守り続け、命の水として、下流へ届けることが、私たち上流に住む者の果たすべき責任だと思います。

私たちの生活でどれだけの水が使われているかと考えると、朝起きて夜寝るまでの間、当たり前のようにたくさんのお水を使って生活していることに気づかされます。水がなければ生きていくことはできません。

私たちは水のある生活を当たり前だと思っではいけないと思います。空梅雨や真夏になると水不足になり、節水になります。節水は生活に直接かわるだけでなく、森林や川を守り、環境を守るためにも大切な行動です。そうした時期だけでなく、日常生活で節水に努めることは、誰にもできることです。

命の水は限りある大切な資源です。一人一人が水の尊さを意識し、水をありがたく使うことが重要です。私はこれからも川の美化や節水に努め、水の大切さを呼びかけ、水のために自分にできることを実行していきます。

新型コロナウイルスは、命や幸せな日々を奪う恐ろしいものです。そ

して、最も効果的な感染予防対策は命の水による手洗いです。  
「みんな、しっかり手を洗おうね。」  
今日も父をはじめ家族全員の声が響きます。

## 全日本中学生水の作文コンクール実績(愛知県分)

	応募状況								表彰数	
	応募 学校数	応募総数 編	性別		学年別				知事表彰 編	国の表彰 編
			男 名	女 名	1年 名	2年 名	3年 名	不明 名		
第1回 (昭和54年度)	12	349								入選 1
第2回 (昭和55年度)	16	113	30	83	46	22	35	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 6 11	入選 2
第3回 (昭和56年度)	28	439	164	275	191	129	119	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 18 23	入選 1
第4回 (昭和57年度)	26	335	127	208	78	166	91	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 10 15	入選 1
第5回 (昭和58年度)	26	254	86	168	58	101	95	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 6 11	入選 1
第6回 (昭和59年度)	31	598	217	381	288	121	189	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 10 15	公団総裁賞 入選 1 1
第7回 (昭和60年度)	30	574	219	355	245	184	145	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 10 15	入選 1
第8回 (昭和61年度)	30	320	112	208	112	123	85	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	入選 1
第9回 (昭和62年度)	25	916	409	507	401	384	131	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	入選 1
第10回 (昭和63年度)	25	704	291	413	239	150	315	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	入選 1
第11回 (平成元年度)	50	1,232	503	729	501	403	328	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 10 15	入選 2
第12回 (平成2年度)	52	1,148	518	630	440	400	308	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	入選 1
第13回 (平成3年度)	35	734	346	388	270	206	258	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	該当なし
第14回 (平成4年度)	36	383	135	248	139	143	101	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	全日本中学校 長会会長賞 1
第15回 (平成5年度)	33	988	444	544	191	391	406	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	該当なし

	応募状況								表彰数		
	応募 学校数	応募総数	性別		学年別				知事表彰	国の表彰	
			男	女	1年	2年	3年	不明			
第16回 (平成6年度)	35	883	358	525	259	390	234		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	入選 1
第17回 (平成7年度)	30	940	454	486	442	244	254		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	該当なし
第18回 (平成8年度)	28	300	124	176	97	155	48		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 4 9	入選 1
第19回 (平成9年度)	17	393	167	226	208	81	104		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	該当なし
第20回 (平成10年度)	25	347	139	208	166	79	102		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	該当なし
第21回 (平成11年度)	28	719	306	413	234	374	111		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	入選 1
第22回 (平成12年度)	15	330	189	141	137	50	143		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	該当なし
第23回 (平成13年度)	13	222	105	117	88	53	81		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	該当なし
第24回 (平成14年度)	10	238	128	110	74	87	77		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 6 11	入選 1
第25回 (平成15年度)	16	518	262	256	17	330	171		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 3 6 10	該当なし
第26回 (平成16年度)	10	371	198	173	37	127	177	30	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	入選 2
第27回 (平成17年度)	13	430	-	-	178	144	104	4	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	該当なし
第28回 (平成18年度)	13	385	-	-	49	188	148		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	該当なし
第29回 (平成19年度)	11	530	-	-	128	77	325		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	優秀賞(中央審査会特別賞) 1
第30回 (平成20年度)	12	833	-	-	348	189	294	2	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	該当なし

	応 募 状 況		性 別				学 年 別				表 彰 数	
	応 募 学 校 数	応 募 総 数	性 別		学 年 別				知 事 表 彰	国 の 表 彰		
			男	女	1 年	2 年	3 年	不 明				
第31回 (平成21年度)	13	385	-	-	84	222	79		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 2 5 8	最優秀賞(国土 交通大臣賞) 1	
第32回 (平成22年度)	11	305	-	-	120	62	123		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 2 5 8	該当なし	
第33回 (平成23年度)	19	620	-	-	238	140	242		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 2 6 9	入選 1	
第34回 (平成24年度)	17	165	-	-	87	55	23		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 2 5 8	優秀賞(独立行政法 人水資源機構理事長 賞) 1 入選 1	
第35回 (平成25年度)	12	333	-	-	74	104	155		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 2 5 8	該当なし	
第36回 (平成26年度)	11	258	-	-	119	46	93		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 2 5 8	該当なし	
第37回 (平成27年度)	8	231	-	-	124	52	55		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 1 6	入選 2	
第38回 (平成28年度)	6	216	-	-	72	77	67		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 3 8	該当なし	
第39回 (平成29年度)	6	128	-	-	48	44	36		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 3 8	入選 2	
第40回 (平成30年度)	9	184	-	-	58	98	28		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 2 7	優秀賞(厚生労働大 臣賞) 2 優秀賞(全日本中学 校長会会長賞)	
第41回 (2019年度)	7	26	-	-	0	4	22		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 3 3 7	優秀賞(独立行政法 人水資源機構理事長 賞) 2 入選	
第42回 (2020年度)	12	15	-	-	2	2	11		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 3 8	優秀賞(農林水産大 臣賞) 2 入選	

[ホーム](#) > [組織でさがす](#) > [水資源課](#) > 家庭でできる簡単な節水方法

## 家庭でできる簡単な節水方法

掲載日: 2015年4月23日更新

### 家庭でできる簡単な節水方法

現在、日本では、水道の蛇口をひねれば、簡単に水を手に入れることができます。そのため、私たちは、水は豊かにあると思いがちです。しかし、水は限りあるものであり、貴重な資源です。これからは、必要な分だけを使うようにし、むだな使用はなくすように努めて、「節水型社会」をつくっていく必要があります。

いま一度、自分の生活を見直し、毎日の生活の中で水の使い方の工夫をしてみましょう。工夫の一例を紹介します。

#### 炊事後片付けの工夫

食器・フライパンは、油污れなどを新聞紙や布で落としてから水洗いをする、水を節約することができます。また、蛇口のこまめな開け閉めを心がけましょう。

#### 歯みがきのときは水を止める

30秒間水を出しっぱなしにすると、約6リットルもの水を使います。4人家族の朝晩の歯みがきで水を出しっぱなしにすると、1年間で500ミリリットルのペットボトル3万5040本もの水になります。

コップなら3杯程度ですみます。

#### 洗濯はお風呂の残り湯で

浴槽は小さなものでも200リットル。水温が高いため汚れ落ちも良くなります。また、洗濯だけでなく、ふき掃除や植木の水やり、まき水にも使いましょ。

#### 水洗トイレも節水できます

水洗トイレの洗浄レバーは、大きさを適切に使い分けることによって水を節約することができます。また、新築・改築時には節水型の機器を積極的に取り入れましょう。

#### 洗車はバケツで

バケツ洗いなら30リットル程度ですむ洗車も、流しっぱなしのホース洗いでは、240リットル以上の水を使ってしまいます。

#### お米のとぎ汁は植木にまきましょう

栄養分があるので肥料になり、河川の汚れも防げます。





節水ステッカー一覽

水は限りある貴重な資源です。  
このステッカーは県民のみなさんに水を大切に使うために作成したものです。

昭和57年度	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度
			
昭和61年度	昭和62年度	昭和63年度	平成元年度
			
平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度
			
平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度
			
平成10年度	平成11年度	平成13年度	平成14年度
			
平成15年度			

節水ステッカー一覧

